

食料品アクセス問題をデザインする数理技術

鳥海 重喜

中央大学 理工学部 情報工学科

近年、郊外地域のみならず都市部においても満足に買い物に行けず、日々の生鮮食料品を確保することに苦勞している買い物弱者が増えている。この社会的な問題は、フードデザート（食の砂漠）問題と呼ばれており、内閣府の調査に依れば約 600 万人が該当しているとされている。本講演では、福岡市を事例として、現状の生鮮食料品店の空間分布と高齢者に着目した人口の分布からフードデザート問題を可視化する方法を紹介する。さらに、フードデザート問題をこれ以上悪化させないようにするために必要となる生鮮食料品店の最小店舗数ならびにその立地、および店舗の重要度を数理計画問題として評価する。これらの結果を踏まえ、フードデザート問題の解決策について議論したい。